

<b>Title</b>	医療が癒せない病：生老病死の日本的なスピリチュアル・ケア（総合研究所News：2010年度 聖学院大学総合研究所スピリチュアル・ケア研究室講演会）
<b>Author(s)</b>	聖学院大学総合研究所
<b>Citation</b>	聖学院大学総合研究所 Newsletter, Vol.20-2：40-43
<b>URL</b>	<a href="http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/reps/modules/xoonips/detail.php?item_id=2424">http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/reps/modules/xoonips/detail.php?item_id=2424</a>
<b>Rights</b>	

聖学院学術情報発信システム：SERVE

SEigakuin Repository for academic archiVE

2010年度 聖学院大学総合研究所  
スピリチュアル・ケア研究室講演会  
医療が癒せない病  
～生老病死の日本的なスピリチュアル・ケア～

医療は急速な進歩を遂げてきた。多くの疾病から生命が守られたが、なお癒せない病気がある。また、どうしても避けることができない死や別離がある。日本人はそれをどのように受け止めてきたのか。

私たちが忘れてしまった日本的なスピリチュアルな癒しがあることを、カール・ベッカー先生が気付かせてくれる。日本人の魂の深みにふれる癒しの講演である。

日時 2010年6月11日(金)14:00～16:20

場所 新都心ビジネス交流プラザ 4階会議室C

【プログラム】

主催者挨拶、講師紹介

窪寺俊之（聖学院大学大学院教授）

講演「医療が癒せない病～生老病死の日本的なスピリチュアル・ケア」

カール・ベッカー（京都大学こころの未来研究センター教授）

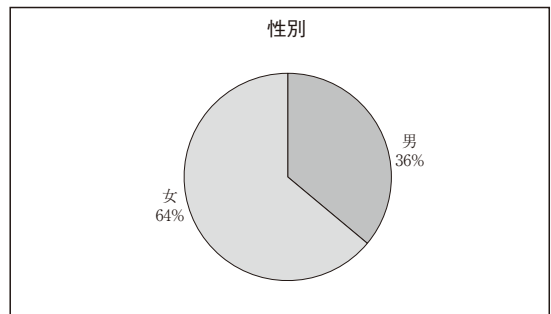
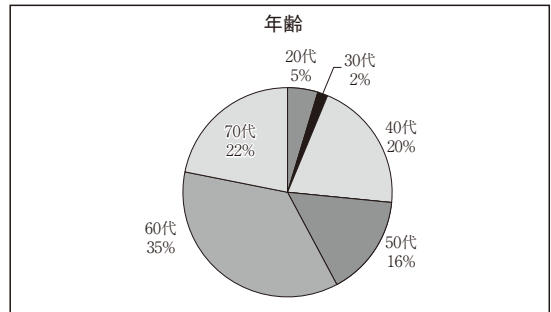
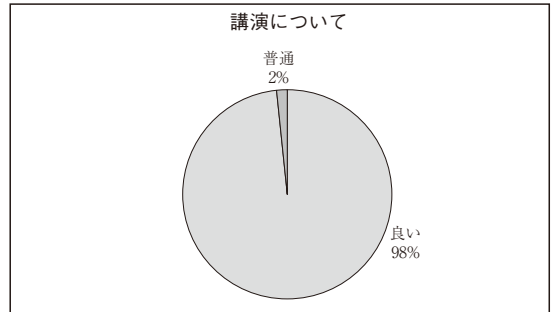
質疑応答

閉会あいさつ 窪寺俊之（前掲）

【結果の概要】

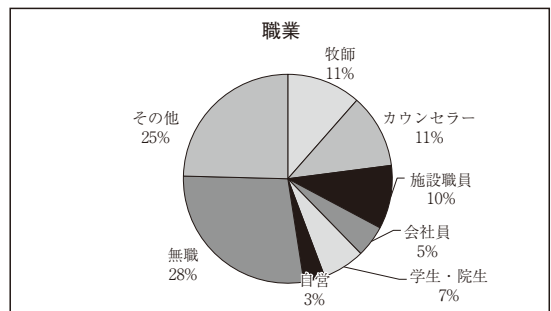
- ・参加者の人数は105名。内、アンケート回答者は64名だった。
- ・講演について、「良い」という意見が98%と高い評価だった。
- ・自由意見は、「分かりやすく、幅広いお話で良かった」「日本の文化の良さを再認識できた」「また是非このような講演会を開催してほしい」など。
- ・参加者の年齢は、「60代」が35%と最も多く、

次に「70代」22%、「40代」20%となった。



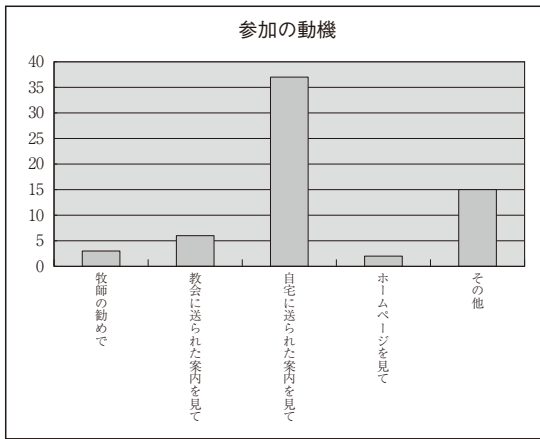
性別は、「女性」64%、「男性」36%だった。

・職業別では、「無職」が28%、次に「牧師」「カウンセラー」共に11%となった・「その他」の



内容は、「看護師」「僧侶」など。

- ・参加の動機として、「自宅に送られた案内を見て」が最も多かった。「その他」として「他の講演会で知って」「学校で見て」「友人の紹介」「勤務先に送られた案内を見て」など。



## リクエスト

- ・体外離脱や天使の話を知りたい。日本の往生伝の話も知りたい。
- ・キリスト教だけでなく他宗教とのパネルディスカッション方式があれば良いのではないか。
- ・カール・ベッカー先生のお話をまた聞きたいです。
- ・「気」は東洋哲学のエネルギーだと思います。関連する話を聞きたいと思います。
- ・同一のテーマで、日本的なキリスト教サイドからのスピリチュアル・ケアについて講演を聞きたい。
- ・「1/4の奇跡、本当のことだから」という映画でとりあげられた方。
- ・窪寺先生や藤井美和先生のお話も伺ってみたいです。また、「障害とスピリチュアリティ」の関係性についても聞いてみたいと感じました。
- ・沼野尚美さん。涙、ユーモアあり、とても生と死を考える時間となります。
- ・遺族に対するケアの事例までの紹介を取り入れてほしい。
- ・藤井理恵。大西秀樹。
- ・もう一度。

## 自由意見

- ・楽しくお話を聞くことが出来ました。たくさんの事を学べたと思います。これからの人生に大きな影響があります。日本の仏壇、慣習はとても大切なことだとわかった。
- ・「死を忌み嫌う」風潮の中で当然の如く動いて

いる社会。この世での生活を終え、新しい旅立ち、自分の死を取り囲む全ての物、人などを大切に考え、準備していきたいと思いました。

- ・今日の話の内容が簡単に分かる印刷したものがあるといいです。年齢のせいか、聞きながら書くのは大変です。脳出血のため、右側マヒがあるためちょっと不自由です。
- ・とても面白く、参考になりました。共感できる意見が非常に多かったです。一点だけ指摘したい点があります。愛するものの死について、「自分だけが」と思うのは幻想であると否定的ではあったが、同時に自分だけの意味を創造する契機でもある。また、ある期間執着するのは、大きな衝撃に対するクッションとなっている場合もあるため、一機に病理的と否定するのは問題があるように思います。
- ・このテーマで、より医療現場の人々に広報をかけて行っていただけたらと思います。医療現場で働く人の意識がかわっていくことが急務かと思う。
- ・今、101歳で死の準備の中にいる先生や、25年間母を亡くしてから一人住まいを続けている92歳の父の日々の様子などを思い出しながら先生のお話を伺いました。とても良く分かり参考になりました。今日はとても良い時をありがとうございました。
- ・スピリチュアルについては関心のあるテーマであり、今日のカール・ベッカーさんは外国人でありながら、日本人とは異なる視点で日本の伝統、文化も踏まえ、大変ユニークな内容であり、



カール・ベッカー 京都大学こころの未来研究センター教授

愉しく、しかも為になりました。生と死について改めて学び直したいと思いました。

- ・兄が81歳で大手術を終え難しい時期をむかえて毎日をすごしております。今日のお話で心が少し静かに、そして悲しみより何か違う力を与えられたようです。ありがとうございます。
- ・カール・ベッカー先生の日本的なスピリチュアル・ケアの研究に大変敬服します。しかし、私はキリスト者として、共通点も多くありました。仏教を基盤とした人たちとも共生していきたい。質問に答えてくださった中にも、大きく広く知らされた。
- ・話の内容が思いがけなかった。外国の方からこういう話を聞かされるとは！クリスチャンになれない人の中に仏壇のことがひっかかる人が多い。特に長男の人（先祖のこと）。私自身も常に残された者の悲しみのことを思う。故に今を大切にお互いにこの時をいとおしく生き合っている。自分が満足して生きていることを子ども達に伝えている。
- ・日本人として生まれ、確かに自分の感受性の中に今日伺った重なる部分が多々あった。クリスチャンとなり、伝道をするようになり、そうした日本古来のものを否定せずにはゆるされないと考えざるを得ない。家に帰ってもう一度じっくりとメモしたものを読み直して考えてみたいと思っている。
- ・「祈りというコミュニケーション」や「南無によるストレス予防」など興味深いお話が聞けて、大変参考になりました。カール先生の快活なお人柄が垣間見えてとても楽しく、有意義な時間を過ごすことが出来ました。また機会がありましたらお話を伺いたいです。ありがとうございました。
- ・この1年数ヶ月の間に立て続けに両親を亡くしました。今日はこの悲しみから立ち直る術を知りたくて参加させていただきました。お墓参りや朝晩の祈り、両親と深いつながりを保ちながら前向きに残りの人生を歩むということをしてきたのだということを知りました。
- ・いつかは死に直面すると思うけど、心の中に深い信念をもち、その日を迎えられるように生き



定員を超える105名の参加があった

ていきたいと強く思いました。とても良い、心に残る講演会でした。

- ・日本人であること、長い間大切にしてきたものに改めて深いものを感じさせていただき感謝でした。教会に於いて外来からのものばかりに染められてきた(?)こともありかなと。
- ・日本人の忘れてしまった心像に触れるようお話ししてくださったので、とても参考になりました。
- ・先生のお話に大変なパワーをいただきました。終末期医療に携わっているので、特に医療の限界、医療者が死後の世界の存在を信じる事は、とても考えさせられました。もっとお話を伺いたいです。
- ・医療、看護、介護に従事している人たちへの精神的ケアについてのテーマでの講演会、グループワーク等の企画があれば幸いです。
- ・大変深い学びが出来、感謝でした。キリスト者の立場上、仏壇が精神的ケアになるとの日本人的心情はわかりましたが、偶像崇拜という視点から見ると、考えさせられる点がありました。しかし、キリスト教的な信仰に基づくスピリチュアル・ケアの可能性を語っていただければさらに良かったと思います。
- ・非常に分かりやすく、幅広いお話であった。日本人は日本的なものを否定するということで、戦後のいわゆる発展を遂げてきたが、その代償として自ら手放した「癒しの形」を思うと今後、どう活かすべきか考え深い。
- ・死後の世界の研究が出来ていること、出来ることを不思議に思いました。自分で本を読んだりする気はあまりありませんが、講演会などでお

聞き出来たらうれしいです。死は次の世界の入り口だとは分かっていると思っていましたが、これが癒しに繋がっているのでしょうか？ありがとうございます。

- ・今日帰宅後、ほぼ寝たきりの祖父の死後のことなど話し合えたらと思った。それが家族にとって、そして私にとっても死を真剣に受け止める機会になると思ったからだ。ただ、死ぬときのこと、死後のことを決めるのは本人自身であることは確認したい。
- ・死にゆく人に対して、医療者だけでなく、一般の人にも出来るんだと感じました。こちらが語る以上に親身になってよく悲しみ感情で聞き、共有することが大切だと思いました。
- ・仏壇に関する思いを変えることが出来ほっとしています。娘のパートナーが突然召され、大変な時を過ごしました。クリスチャンとして五代目を迎えた娘の家庭に仏壇が置かれました。パートナーの両親から送られてきたのです。とても悩みましたが、今日のお話を伺い考えの狭さを知らされています。お礼申し上げます。また、living will に関してははっきり家族に書類を前にして話しあいたいと決心しました。
- ・普通聞けない貴重なお話、ありがとうございました。死を考えることによって生きることの意味がみえてくると思いました。
- ・日本文化としての宗教的行為にも様々なスピリチュアルケアの役わりがあることがよく理解することが出来ました。企画していただきありがとうございます。
- ・97歳の義母の介護を間近に見ています。彼女には死の恐怖があるようには見受けられません。どのような状況の中で命をまっとうするのか興味深いです。義父は10年前に他界しましたが病もあって苦しみの中で世を去りました。
- ・日本人が一般的に持っている死生観など、古来からの伝統などに基づき話して下さり興味があった。
- ・大変学びを得ました。職場で活用し、燃え尽きないようになれそうです。スタッフへも伝えられたらと思います。
- ・現代の日本人はここまで考えていない。本当に

死の準備をしている人は少ない。

- ・医療にゆだねるべき領域とカウンセリングの領域を、どう見分けるべきか知りたい。
- ・ベッカー先生から仏教的立場に立った話を伺い、ありがとうございました。
- ・考えるべき多くのことがあったと思います。質疑応答も参考になりました。
- ・日本の文化の良さを再認識できた。質問に対する答えが良かった。
- ・日本人としての古い経験値に新しく前向きで、科学的な解釈をしていただいて、目からうろこでした。
- ・日本の精神性を再確認させていただきました。
- ・日本に流れる空気感を再認識出来ました。
- ・ユーモアを交えた本当に楽しい話でした。
- ・今回は本当にありがとうございました。
- ・出席できて有難く存じます。
- ・おもしろくて参考になった。
- ・とてもよかったです。
- ・感動しました。
- ・講演会が始まる前に携帯はマナーモードにするようアナウンスする必要があるのではないか。エアコンが強すぎました。